（　　）

『一ふさのぶどう』を読んで

アールズ花子

あこがれとは誰もが抱く感情です。

少年がスポーツ選手にあこがれる、医者にあこがれるなど、その対象は、人物であったり職業であったりさまざまです。この物語で「ぼく」があこがれたのは、「大好きな担任の先生」でした。これは、異性へのあこがれになります。

異性へのあこがれといえば、恋愛感情をすぐに思い浮かべますが、「ぼく」のあこがれの感情は少し違うと思います。たぶんこの物語の「ぼく」は、小さくて、私の想像では小学校一年生くらいかなと思います。

小学校一年生くらいの低学年のときの異性へのあこがれは、恋愛感情とは少し違うと思います。

「〇〇ちゃん好き」

「〇〇くん好き」

と言っても、やつらには恥じらいがありませ